

竹芝会場で「島じまん 2008」 盛況！7万8千人が参加



「島じまん 2008」に参加したハート会のメンバー

5月31日、6月1日に竹芝会場で行われた「島じまん 2008」をはじめとした三宅に関する行事に多くの人が集まった。今後も開催されるイベントが復興に繋がることを願いたい。

観光立島を提唱する三宅村は、夏を迎えて本格的な活動を開始した。まず7万8千人を集めた「島じまん2008」。

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○第12回世話人会開催
日時：7月22日(火)18時30分～20時30分
会場：喫茶室ルノアール 会議室(巣鴨店)にて
○向上高校生 三宅島でボランティア活動

8月10日(日)～12日(火) 在京島民または在島の一人暮らしをする方の住宅の清掃などボランティア活動をします。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

○ご寄付のお願い
ご協力お願い致します。

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
事務局：あすなる保育園内
住所：〒173-0005 東京都板橋区仲宿 25-6
電話・FAX 03(3963)5697

島のイベント情報

6月14日(15日ガスで中止)は、「三宅島復興記念第20回三宅島サイクルロードレース」が日本サイクルレーシング協会・日刊スポーツ社協力で開催。三宅村観光振興課観光商工係によると、島外競技関係者は昨年より増え161人参加。

三宅村は6月5、6、7日に住民懇談会を開催。新設された観光振興課

島村幸明課長より主なイベントの説明があり、島内外の協力と参加を呼びかけた。

【7月】
◎チャレンジ三宅島08

モーターサイクルフェスティバルインお台場(イベント)
7月6日(日) 10時～17時
会場 お台場特設会場(青海臨時駐車場)

◎「三宅村・小金井市友好都市30周年記念」第14回ふれあいランド三宅島マリンスコール21フェスティバル
7月25日(金)～26日(土) 会場 島内

内容 模擬店、郷土料理コーナー、小金井市・三宅島・八丈島・御蔵島芸能など出演

【8月】
◎三宅島エコ・ライド(10kmの島内サイクリ

8月2日(土) ングを楽しむ

【9・10月】
◎2008東京国際トライアスロン三宅島大会
9月20日(土)

内容 2013年東京国体に向けた三宅島初のトライアスロンのトライアスロン
◎チャレンジ三宅島08
モーターサイクルフェスティバル
10月17日(金)～19日(日)

主催 三宅村・三宅島スポーツ振興会
支援 東京都
会場 島内

内容 空港を舞台としたレースの観戦など、さらに島の味や郷土芸能を楽しめるアトラクションもある。
☆ぜひ三宅島に足を運んでください。

会長時評

ふるさとネットの活動に多くの協力や激励

結束し 高濃度地区問題の解決を

メンバーや協力者等の努力で、ふるさとネットの活動は多くの方から認知され、応援していただける状況になっている。今後必要なのは、現実を直視して島民が結集すること。特に高濃度地区の問題は早期に解決しなければならぬものである。

協力者に感謝

ふるさとネットの第5回定例会は5月の「三宅島新報」、議案書でお知らせした。多数の方々から感謝と激励のお言葉

を頂いた。

これは、世話人及び活動を取り仕切っている伊藤奈穂子事務局長、当紙作成・印刷の向上高校山田貴久先生と卒業生の「DTPA」、大妻



家主を待ち続ける三池高濃度地区の民宿

女子大学人間関係学部干川剛史教授・研究室、ホームページ作成の佐藤静香さんたちが、仕事や学業の合間を縫ってのご協力の結果であることをご報告し感謝を申し上げます。

島民の連携が課題に

これらの方々の中には、全島避難中から私たち三宅島の島民に対する支援を継続している。三宅村と東京都が全島

避難指示解除をもって噴火災害は終了したとの一方的な行政解釈に従いボランティア関係者も三宅島支援から大半が手を引いた。

しかし、なかでも「風の家」など数少ない活動に共感して、「支援をして



6月7日に行われた阿古地区住民懇談会

に申し訳ない」とネットの協力会員になつてくれる島民も出てきている。今一度、現実を直視して島民が結束をすることが必要だと思う。例えば、4月26日に空港が再開されたが、火山ガス基準で就航率は60%台に低迷している。

禁止条件の見直しを

今年度の最も大きな課題は、高濃度地区約125世帯の問題である。

平野村長も全面的に取り組む姿勢を住民懇談会で発言をされた。大いに期待をしたい。専門家が決めた高濃度

地区制限と禁止条件は、島内で生活している島民の実態とは大きく違っている。工業や自動車ガス等が原因で起きるガス公害の基準と三宅島の噴火ではあまりにもかけ離れている。三宅島の自然条件は強風や季節風に左右されており、ほとんどが一時的なものだ。

村は自治会協議で決着を

しかもガスの影響を強く受ける人々は高感受性者として帰島をしていないか、また再度避難した人もいる。これが島の現状だ。だから村のガス避難放送で、ガスマスクを携帯、着装、避難した人が何人いる？ガス健診も30%台で、条例は形骸化し機能していないのだ。

村は責任回避のための規制はやめて当該自治会と協議して脱硫装置設置と避難所(例えば元役場3階等)を設け、各自は健康状態に応じ、村営住宅等の救済策を含めて住居を定めればよい。このままでは一部村民に対して冷淡で過酷すぎる。

過去の噴火と違い、火山ガスの噴出が止まらない雄山。そんな噴火に関する情報を提供することで島民の安全を守る三宅島測候所長の稲葉和弘氏に寄稿をしていただいた。

噴火情報で島民を守る

三宅島測候所長 稲葉 和弘氏

止むことのないガス

日本で最も活発な火山の一つである三宅島では、平成12年の夏以降火山ガスの放出は止むことはなく毎日千〜3千トンの二酸化硫黄を出し続けています。

近年の三宅島では昭和15年の噴火以降およそ20年の間隔で噴火を繰り返してきましたが、噴火の形態は山腹割れ目噴火がほとんどでした。昭和15年7月12日は北東山腹で

プロフィール



- ・昭和29年群馬県生まれ
- ・東京理科大学物理学科卒業
- ・気象大学校地震海洋課程修了
- ・南極観測越冬隊を目標し、高層観測や富士山測候所勤務に従事するが、諸事情により断念
- ・浅間山や草津白根山担当調査官を経て、平成15年富士山測候所技術課長就任
- ・平成17年東京管区防災調整官就任
- ・平成18年三宅島測候所長就任

噴火が始まりひょうたん山(標高58・1m)を形成し、13日夜半からは雄山山頂部でも噴火を開始しました。昭和37年8月24日の噴火は、北東山腹の昭和15年噴火に重なる位置で三七山(標高89・

2m)を形成しました。溶岩はコークス状の黒い表面をしたアア溶岩と呼ばれるもので、固化前は粘性が小さく流れやすいのが特徴です。

昭和58年10月3日は、南西山腹で噴火を開始し阿古集落の約400戸が溶岩流で埋没してしまいました。

異例な今回の活動

しかし、平成12年の7月8日から雄山山頂で始まった噴火活動はこれまでの噴火形態と全く違ったものでした。約千°Cの灼熱した溶岩を島の中心から放射状に延びる直線上に噴き上げ、急速に活動を停止したこれまでの噴火と違い、表面的には溶岩噴出は無く、火山灰や岩塊を全島に大量に噴きだしました。雄山山頂

部には人類史上初めての陥没カルデラが形成され、その規模は利島がすっぽり入ってしまう位の大きさで直径約1・7km、深さは500mにも及びます。火口底の南端には直径約90mの主火口があり、現在でも火山ガスを含む噴煙を出し続けているのです。

住民が帰島してからの噴火は6回あり、少量の火山灰を都道にまで短時間降らせました。

気象庁には噴火災害から地域住民を守るために火山情報の発表責任があります。近年、火山の活動度把握や噴火メカニズムの解明が進んだことから、昨年12月1日に「噴火警報」等の発表を始め、これまでの「緊急火山情報」や臨時火山情報等は発展的に廃止しました。

警戒レベル導入

さらに、防災機関や住民が即時にとるべき防災行動が把握できるように「噴火警戒レベル」の導入を本年3月31日から開始しました。

最上位のレベル5では、居住地域にまで重大な影響が懸念され「避難」が必要です。レベル4では避難準備や災害時要援護者の避難開始が必要で、レベル3では居住地域の危険性は少ないが火口への登山禁止や入山規制等が必要。レベル2は、火口周辺のみ危険性が予測される場合で火口周辺規制が必要です。

三宅島では現在「火口周辺警報」が継続され、雄山環状線から上部は「立入禁止」の地区となっており、十分な注意が必要です。

三宅島測候所の外観



【島じまん会場で】

○2年に1度の「島じまん」は、島々の特産品・魅力を全国に発信する発表会のような場です。心こもった手作りの島のものを食べたり、持ち帰ってもらうのは嬉しいことです。島は本来の姿には戻りませんが、島の指導者により、後継者を戻すことが必要だと思えます。島の発展のためにできることは何でもやります！(坪田 三宅ハート会代表取締役 廣井美和子さん)

○以前は島民連絡会の中でふるさとネットの会長と一緒に活動をしていました。帰島してからは忙しくなってあまり力になれませんが、時間が緩やかになればまたお手伝いしたいと思っています。動かないと忘れられてしまう、できる人がやってくれるのはありがたいことです。会長も体にご気を付けて頑張ってください。(阿古 元連絡会副会長 石井節美さん)

【お便り】

先日は会合(5月27日 第11回世話人会)に参加させていただきましたありがとうございます。7月下旬には1度島を訪れたいと思います。(横浜市成島万寿実様)

【ご寄付者名】(4月21日～6月15日)
大石真様、小久保泰枝様

訪問活動 新たな方法で

要望に応える支援を

ふるさと再生ネットが発足して以来、在京島民へのケア活動として行われてきた訪問活動。個々のニーズに合った活動を継続的に行うため、電話などで在京島民の意向を聞き取り調査し、調査票を作成することが決定された。



新たな訪問活動の方向性が話し合われた世話人会(5月27日)

状況やニーズが明らかになり、個々に応じた相談を受けたり、話を続けるなど継続した支援ができるようになる。高齢で一人暮らしの方、病気を抱えている方、支援を必要とする方々のために一同協力し、実行

今年度1回目のふるさとネット世話人会が5月27日に行われ、今後の在京島民への支援についての議題が挙げられた。現在ネットでは在京島民約100世帯の住まいを把握している。今も帰島を望んでいる人、帰島しないと決めた人、避難解除から3年が過ぎて島民の方々の状況・帰島に対しての意向も変わってきている。そこで、世帯

構成や家族の状況、帰島意思の有無、要望など細かい情報をまとめた「在京島民訪問活動調査票」を世帯ごとに作成することが佐藤会長から提案され、決定した。ネット訪問員をはじめ協力者が電話や訪問で各

世帯の島民の方からお話を聞き全世帯の調査票を作成することとなった。**ふれあいコールを実施**
完成した調査票を基に訪問活動や、電話での活動「ふれあいコール」を行っていく。各世帯の

帰島支援チャリティーショー開催

舞踊家鶴吉さんが島民にエールを

三宅島帰島支援チャリティーショー「がんばれ三宅島」が11月15日(土)に大田区民ホール・アプリコ 小ホール(JR蒲田駅から徒歩3分/京急蒲田駅から徒歩7分)で行われます。参加は無料で、開演17時30分(開場16時30分)。後援は大田区。このチャリティーショーは、三宅島のみならず、三宅島の方に元気になってもらいたいと、昨年1月に「板橋の集い」に出演された舞踊家の鶴吉さんが企画してくださいました。お問い合わせは、三宅島ふるさと再生ネットワーカー事務局の伊藤までお願い致します。みなさんご参加を心待ちにしています!

編集後記

三宅島新報は今号も無事に発行することができました。発行するためには、取材に協力してくださいる方がいなければなりません。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。この新報の編集を通して、三宅島に目を向ける人が増え、そのことが、少しでも未だに帰ることができない島民の方の心の支えになってほしいと思っています。(DTPA一同)

新報に関する意見を事務局までお寄せください。